Symantec Backup Exec 2010

クイックインストールガイド

20047221

Backup Exec のインストール

この文書では以下の項目について説明しています。

- システムの必要条件
- インストール前の処理
- Backup Exec サービスアカウントについて
- ローカルコンピュータへの Backup Exec のインストール
- ローカルメディアサーバーへの Backup Exec 追加オプションのインストール
- 以前のバージョンの Backup Exec のアップグレードについて
- インストール後のタスク

システムの必要条件

このバージョンの Backup Exec の実行に必要なシステムの必要条件を次に示します。

表 1-1　システムの必要条件

項目	必要条件
オペレーティングシステム	互換性があるオペレーティングシステム、プラットフォーム、アプリケーションのリストは、次の URL で参照できます。 http://entsupport.symantec.com/umi/V-269-1 Windows Server 2008 の Windows Server Core インストールオプションが実行されているコンピュータに Backup Exec メディアサーバーをインストールすることはできません。Server Core コンピュータには、Backup Exec Remote Agent for Windows Systems のみインストールできます。 読み取り専用ドメインコントローラ(RODC)ロールに構成されている Windows Server 2008 コンピュータに、SQL Express または SQL Server 2005 をインストールすることはできません。読み取り専用ドメインコントローラロールでは、SQL Express および SQL Server 2005 で必要なローカルアカウントを使用できません。RODC コンピュータに Backup Exec をインストールする場合は、Backup Exec データベース用のリモート SQL インスタンスを選択する必要があります。
アプリケーションのサポートの追加	Backup Exec は、Microsoft Windows の Microsoft Operations Manager (MOM) 2005 と併用できます。
インターネットブラウザ	Internet Explorer 6.0 以上(SQL Server 2005 Express には Service Pack 1 が必要です)
プロセッサ	Intel Pentium、Xeon、AMD、またはこれらに互換性のある種類
メモリ	必須:512 MB RAM 推奨:1 GB RAM 以上 (パフォーマンスの向上にはさらに増やすことをお勧めします) **メモ:** 必要とされる RAM は、実行する操作、インストールするオプションおよびコンピュータの構成によって異なります。 CASO の場合:512 MB RAM (1 GB を推奨します) 仮想メモリの推奨値:Windows 推奨の合計ページングファイルサイズ (全ディスクボリュームの合計) に 20 MB を加算した容量。ページングファイルサイズの参照または設定の方法について詳しくは Microsoft Windows のヘルプマニュアルを参照してください。
インストールディスク領域	1.44 GB (通常のインストールの場合) 2.32 GB (すべてのオプションを含む場合) **メモ:** 必要とされるディスク領域は、実行する操作、インストールするオプションおよびシステム構成によって異なります。Backup Exec のデータベースおよびカタログ用に、別途領域が必要となります。さらに 330 MB が SQL Express に要求されます。

項目	必要条件
その他のハードウェア	推奨されるハードウェアは次のとおりです。 ■ ネットワークインターフェースカードまたは仮想ネットワークアダプタカード ■ CD/DVD ドライブ ■ マウス (推奨) ■ Windows 対応モデム (ページャ通知用オプション) ■ Windows 対応プリンタ (プリンタ通知用オプション)
ストレージ用ハードウェア	ストレージメディアのドライブ、ロボットライブラリ、リムーバブルストレージデバイスと取外し不可能なハードディスクドライブを使うことができます。 互換性があるデバイスのリストは、次の URL で参照できます。 http://entsupport.symantec.com/umi/V-269-2 Backup Exec を購入するとき、各ロボットライブラリの最初のドライブのサポートを利用できます。追加の各ロボットライブラリドライブのサポートを希望される場合は、別売の Backup Exec Library Expansion Option が必要です。

インストール前の処理

Backup Exec をインストールする前に、次のタスクを実行する必要があります。

- Backup Exec をインストールするコンピュータで Backup Exec 環境チェックを実行します。環境チェックでは、インストール処理を完了できるかどうかを確認するためにコンピュータが分析されます。インストール中に Backup Exec によって解決される設定の問題、またはインストールを妨げる要因となる設定の問題が検出された場合は、警告が表示されます。環境チェックはインストール中に自動的に実行されますが、Backup Exec をインストールする前または Backup Exec でデータをバックアップする前に手動で実行することもできます。
- メディアサーバーにストレージデバイスハードウェア (コントローラ、ドライブ、ロボットライブラリ) をインストールします。インストールの方法について詳しくはストレージデバイスハードウェアに付属したマニュアルを参照してください。コントローラおよびストレージデバイスの設定を行うには、該当する Windows のハードウェアセットアップ機能を使用してください。詳しくは Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。
- Windows のセキュリティ設定をチェックして、その設定が Backup Exec サービスアカウントで適切に動作することを確認します。
  p.6 の「Backup Exec サービスアカウントについて」を参照してください。
- Backup Exec をインストールするドライブが暗号化または圧縮されている場合にデフォルトの SQL Express データベースを使用するには、暗号化または圧縮されていないドライブに SQL Express をインストールできることを確認します。

- Backup Execをインストールするコンピュータのコンピュータ名を確認します。標準のANSI 文字のみが使用されている必要があります。標準でない文字が使用されている名前のコンピュータに Backup Exec をインストールすると、エラーが発生する可能性があります。
- 他のすべてのプログラムを終了します。

Backup Exec サービスアカウントについて

メディアサーバー上のすべての Backup Exec サービスは、Backup Exec システムサービス用として構成されているユーザーアカウントのコンテキスト内で実行されます。このアカウントは Backup Exec のインストール時に作成することができます。また、既存のユーザーアカウントを使用することもできます。インストール時に Backup Exec のサービスアカウントを作成するには、使用する Backup Exec サービスの管理者アカウントの名前およびパスワードを入力します。

メモ: Backup Exec がインストールされるとき、Backup Exec サービスアカウントと Backup Exec システムログオンアカウントは同じユーザー名に設定されます。使われなくなったサービスアカウントのユーザー名を変更する必要がある場合は、新しいクレデンシャルを使うために Backup Exec システムログオンアカウントも変更してください。

コンピュータがドメインに属している場合は、ドメインの管理者アカウントまたはドメインの管理者グループ内のアカウントに相当するアカウントを入力します。[ドメイン]リストでドメイン名を選択または入力します。

コンピュータがワークグループに属している場合は、管理者アカウントまたはコンピュータの管理者グループ内のアカウントに相当するアカウントを入力します。[ドメイン]リストでコンピュータ名を選択または入力します。

新しいアカウントを作成する場合でも、既存のユーザーアカウントを使用する場合でも、Backup Exec のサービス用として使用するアカウントには、次の権限が必要です。

- ユーザーとして認証し、ユーザー ID のもとでリソースにアクセスする。
- ローカルリソースへのアクセス時に使用可能なトークンオブジェクトを作成する。
- サービスとしてログオンする。
- 管理権限 (コンピュータに対する完全で制限のない権限)。
- バックアップオペレータ権限 (ファイルとディレクトリをリストアする権限)。
- 監査ログおよびセキュリティログを管理する。

Microsoft Small Business Server の場合は、実装されているセキュリティの関係により、サービスアカウントとして Administrator を使用する必要があります。

Windows Server 2003/2008、Windows XP コンピュータでは、空のパスワードのアカウントが許可されるように Windows が設定されていない限り、空のパスワードのアカウントを使用して Backup Exec をインストールすることはできません。空のパスワードを指定した場合は、インストール中に次のエラーメッセージが表示されます。

<サーバー>¥<ユーザー名> に与えられたユーザーおよびパスワード情報では認証できませんでした。

ただし、コンピュータに空のパスワードを許可するよう設定することができます。詳しくは Windows のマニュアルを参照してください。

ローカルコンピュータへの Backup Exec のインストール

Backup Exec インストールメディアに格納されているインストールプログラムを使用すると、画面に表示される案内に従ってインストール作業を行うことができます。

インストールプログラムを使って以前のバージョンの Backup Exec からアップグレードすることもできます。

p.13 の「以前のバージョンの Backup Exec のアップグレードについて」を参照してください。

英語版以外の Windows に Backup Exec をインストールするには、次の両方が当てはまる場合は、Backup Exec をインストールする前に Microsoft Web サイトから SQL Express SP3 セットアップファイルをダウンロードします。

- ローカル Backup Exec SQL Express インスタンスを使用する場合。
- Backup Exec をインストールするコンピュータに英語版以外の SQL Server インスタンスが存在する場合。

英語版以外の Windows を使用している以前のバージョンの Backup Exec からアップグレードする場合は、Microsoft Web サイトからその言語用の SQL Express SP3 セットアップファイルをダウンロードする必要があります。

メモ: ターミナルサービスクライアントを使用し、リモートターミナルサーバー上でインストールプログラムを実行してリモートターミナルサーバーに Backup Exec をインストールする場合は、Backup Exec のインストールプログラムの保存先をドライブ文字を割り当てたネットワークドライブパスで指定することはできません。UNC パスで指定する必要があります。

Backup Exec のインストール先コンピュータに、インストールログが Bkupinst.htm という名前で作成されます。

Backup Exec をインストールした後、インストール後のタスクを実行する必要があります。

p.14 の「インストール後のタスク」を参照してください。

ローカルコンピュータに Backup Exec をインストールする方法

1. インストールメディアのブラウザで、[インストール]をクリックし、[Backup Exec のインストールを開始する]をクリックします。

   Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 がこのコンピュータにまだインストールされていなければ、Backup Exec はそれをインストールします。Microsoft .NET Framework のインストールは時間がかかることがあります。

2. [ようこそ]の画面で[次へ]をクリックします。
3. [使用許諾契約書に同意します]をクリックし、[次へ]をクリックします。
4. [ローカルインストール]にチェックマークを付けて、[Backup Exec および各オプションのインストール]をクリックます。
5. [次へ]をクリックします。

   Backup Exec を初めてインストールおよびアップグレードする場合は、[次へ]をクリックした後に、Backup Exec 環境チェックが自動的に実行されます。

6. 環境チェックの結果を確認します。
7. 次のいずれかを実行します。
   - 環境チェックで Backup Exec の正常なインストールを妨げる問題が検出されない場合は、[次へ]をクリックします。
   - 環境チェックで Backup Exec の正常なインストールを妨げる問題が検出された場合は、[キャンセル]をクリックしてウィザードを終了します。問題を修正してから再び Backup Exec をインストールします。
8. 次のいずれかを実行します。

Backup Exec とそのオプションのライセンスキーを所有していない場合	次に示す順序で操作を実行します。 ■ https://licensing.symantec.com にアクセスして、製品を登録します。 ライセンスキーは、Backup Exec とそのオプションのインストールに必要です。インターネットに接続できるコンピュータから Web サイトにアクセスできます。 ■ ライセンスキーを受信したら、手順 9 に進みます。
Backup Exec とそのオプションのライセンスキーを所有している場合	手順 9 に進みます。

9. 次のいずれかの方法を選択して、ライセンスキーを入力します。

ライセンスキーを手動で入力する	次に示す順序で操作を実行します。 ■ ［ライセンスキー］フィールドに Backup Exec ライセンスキーを入力します。 ■ ［Add］をクリックします。 ■ インストールするオプションまたはエージェントごとに、各ライセンスキーについてこの手順を繰り返します。
ライセンスキーをファイルからインポートする	次に示す順序で操作を実行します。 ■ ［ファイルからのインポート］をクリックします。 ■ besernum.xml ファイルを選択します。
評価版をインストールする	次に示す順序で操作を実行します。 ■ ［ライセンスキー］フィールドを空白にします。 ■ 手順 10 に進みます。

10 ［次へ］をクリックします。

入力したライセンスキーが、%allusersprofile%¥Application Data¥Symantec¥Backup Exec ディレクトリの besernum.xml ファイルに保存されます。

11 インストールしたい追加オプションまたはエージェントを選択します。

12 ［次へ］をクリックします。

File System Archiving Option か Microsoft Exchange Mailbox Archiving Option を選択すると、Archiving Option 環境チェックが実行されます。Archiving Option 環境チェックはコンピュータが Enterprise Vault をインストールして設定するための最小必要条件を満たすことを確認します。コンピュータが最小必要条件を満たさなければ、インストールを続行する前にアーカイブオプションのチェックマークをはずすか、またはエラーを修正する必要があります。

13 次のいずれかを実行します。

Backup Exec ファイルのインストール先ディレクトリを変更する	［変更］をクリックして、新しいディレクトリを選択します。
デフォルトのディレクトリを使用する (推奨)	手順 14 に進みます。

マウントポイントを削除すると Backup Exec がアンインストールされるため、インストール先ディレクトリとしてマウントポイントを選択することはお勧めしません。

14 ［次へ］をクリックします。

15 Backup Exec システムサービスに使用する管理者アカウントのユーザー名、パスワードおよびドメインを入力し、[次へ]をクリックします。

p.6 の「Backup Exec サービスアカウントについて」を参照してください。

16 [**SQL Server** の選択]パネルで、Backup Exec データベースを保存するための場所を選択するために次のいずれかを実行します。

[**SQL Server** の選択]パネルはアップグレードでは表示されません。アップグレードの処理中は、データベースの場所を変更できません。アップグレード後にデータベースの場所を変更する場合は、BEUtility を使用します。

ローカル Backup Exec SQL Express インスタンスを作成する	次に示す順序で操作を実行します。 ■ [ローカルに Backup Exec SQL Express インスタンスを作成してデータベースを格納する。]をクリックします。 ■ Backup Exec SQL Express インスタンスの場所を変更するには、[参照]をクリックします。 ■ 場所を選択して、[OK]をクリックします。
既存の SQL Server 2005 または SQL Server 2008 インスタンスを使用する	次に示す順序で操作を実行します。 ■ [ネットワーク上の SQL Server 2005 (SP3 以降) または SQL Server 2008 の既存のインスタンスを使用してデータベースを格納する。]をクリックします。 ■ インスタンスを選択します。 既存のインスタンスに Backup Exec をインストールした場合には、master データベースの自動リストア機能は使用できません。master データベースのリカバリを行うには、そのデータベースを、master データベースのバックアップ時に Backup Exec が自動的に作成し更新した master データベースコピーに置き換えます。 **注意:** Backup Exec のインストール時およびアップグレード時には、Backup Exec によって SQL サービスが何度か停止および起動されます。ユーザーが作成した他のデータベースのうち SQL Server インスタンスを使用するものは、この処理中は利用できません。このような競合を避けるため、Backup Exec は独立した SQL インスタンスにインストールする必要があります。

17 [次へ]をクリックします。

Backup Exec によってインスタンスへの接続が試行されます。

18 [Microsoft SQL Server 2005 Express Edition のセットアップ]画面が表示された場合は、次の手順を実行して、SQL Express SP3 セットアップファイルの場所を識別します。

- ［参照］をクリックします。
- SQL Express SP3 セットアップファイルをダウンロードした場所を検索します。
- ［OK］をクリックします。
- ［次へ］をクリックします。

19 追加の情報を求められた場合、**Symantec**デバイスドライバインストーラを使用して、サーバーに接続されているテープストレージデバイスにデバイスドライバをインストールするように選択し、［次へ］をクリックします。

［すべてのデバイスにSymantecテープデバイスドライバを使用する(推奨)］を選択することをお勧めします。

20 ダイアログボックスが表示されたら、インストールする追加オプションの設定を入力するか選択します。それぞれのダイアログボックスで必要な情報を入力し、［次へ］をクリックしてください。

21 Backup Exec のインストールの概略を確認し、［インストール］をクリックします。

インストール処理の完了には数分かかります。インストール処理中、進行バーは数分間動きません。

22 インストールが完了すると、［LiveUpdate］の実行、［Readme］の表示、デスクトップへのショートカットの作成を選択するチェックボックスが表示されます。

23 ［完了］をクリックしてインストールウィザードを終了します。

24 ［システムの再起動］が表示されたら、変更した内容をシステムに反映するためにコンピュータを再起動します。

ローカルメディアサーバーへの Backup Exec 追加オプションのインストール

Backup Exec をインストールするときエージェントとオプションをインストールできます。ただし、Backup Exec のインストール後に追加オプションをインストールする場合は、このマニュアルの該当するオプションに関する項を参照し、システムが動作の必要条件をすべて満たしているかどうかを確認する必要があります。追加オプションのインストール中、Backup Exec サービスが停止する場合があります。ジョブが実行している場合は、ジョブを停止するか、ジョブの完了を待機するかの選択を要求されます。

p.7 の「ローカルコンピュータへの Backup Exec のインストール」を参照してください。

メモ: ターミナルサービスクライアントを使用し、リモートターミナルサーバー上でインストールプログラムを実行してリモートターミナルサーバーに Backup Exec をインストールする場合は、Backup Exec のインストールプログラムの保存先をドライブ文字を割り当てたネットワークドライブパスで指定することはできません。UNC パスで指定する必要があります。

Backup Exec の評価版または非売品をインストールしている場合は、オプションをインストールするためにシリアルキーを追加する必要はありません。Backup Exec のライセンスを取得している場合、指定された期間中はほとんどのオプションとエージェントの評価版を使用できます。

メモ: Central Admin Server Option がインストールされ、管理対象メディアサーバーに追加オプションをインストールしたい場合には管理対象メディアサーバーを一時停止できます。管理対象メディアサーバーが一時停止された場合、集中管理サーバーはジョブを委任しません。インストールの完了後、管理対象メディアサーバーの停止を解除し、再開します。

ローカルメディアサーバーに Backup Exec 追加オプションをインストールする方法

1. ツールメニューの[このメディアサーバーにオプションとライセンスキーをインストール]をクリックします。
2. [ようこそ]の画面で[次へ]をクリックします。
3. [ローカルインストール]と[追加オプション]が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。
4. 次のいずれかの方法を選択して、ライセンスキーを入力します。

ライセンスキーを手動で入力する	次に示す順序で操作を実行します。 ■ [ライセンスキー]フィールドにライセンスキーを入力します。 ■ [追加]をクリックします。 ■ インストールするオプションまたはエージェントごとに、各ライセンスキーについてこの手順を繰り返します。
ライセンスキーをファイルからインポートする	次に示す順序で操作を実行します。 ■ [ファイルからのインポート]をクリックします。 ■ besernum.xml ファイルを選択します。
評価版をインストールする	次に示す順序で操作を実行します。 ■ [ライセンスキー]フィールドを空白にします。 ■ 手順 6 に進みます。

5. [次へ]をクリックします。
6. インストールする追加オプションを選択して、[次へ]をクリックします。
7. ダイアログボックスが表示されたら、インストールする追加オプションの設定を入力するか選択します。それぞれのダイアログボックスで必要な情報を入力し、[次へ]をクリックしてください。

8 Backup Exec のインストールの概略を確認し、[インストール]をクリックします。

追加オプションのインストール中、Backup Exec サービスは停止します。ジョブが実行している場合は、ジョブを停止するか、ジョブの完了を待機するかの選択を要求されます。

インストールの完了後、サービスが再起動されます。

9 [完了]をクリックします。

以前のバージョンの Backup Exec のアップグレードについて

Backup Exec のバージョン 11d 以降から現在のバージョンにアップグレードするために Backup Exec のインストールメディアを使うことができます。別のアップグレードユーティリティは必要ありません。現在のバージョンの Backup Exec をインストールすると、以前のバージョンと置き換えられます。同一のコンピュータに、異なるバージョンをインストールすることはできません。削除しない場合、Backup Exec の以前のバージョンからのほとんどの設定とすべてのカタログおよびデータディレクトリは保持されます。

Backup Exec の現在のバージョンを実行する Backup Exec Remote Administration Console は、Backup Exec のバージョン 11d 以降がインストールされるメディアサーバーを管理できます。ただし、メディアサーバーで Backup Exec の以前のバージョンを使う場合、現在のバージョンの新しい機能を使うことができません。現在のバージョンの機能を使いたい場合には、Remote Administration Console とメディアサーバーの両方で現在のバージョンを使わなければなりません。Backup Exec の以前のバージョンを使う Remote Administration Console は、現在のバージョンがインストールされるメディアサーバーとともに使うことができません。

Backup Exec をアップグレードする前に、次の事項を実行しておく必要があります。

- アップグレードの時間を短縮するには、不要になったジョブ履歴およびカタログを削除します。
- データベース保守のジョブを実行します。
- SP3 が適用された SQL Server 2005 または SQL Server 2008 に SQL Server 2000 の既存のインスタンスをアップグレードします。

インストール時はメディアサーバーの設定を変更できません。たとえば、集中管理サーバーを管理対象メディアサーバーに変更できません。メディアサーバーの設定を変更したい場合には、現在のバージョンへのアップグレード前またはアップグレード後に行います。アップグレードの処理中は、データベースの場所を変更できません。アップグレード後にデータベースの場所を変更する場合は、BEUtility を使用します。

リモートコンピュータにインストールされているオプションをアップグレードする場合は、再インストールが必要です。プッシュインストールされたオプションは再インストールするまで

アップグレードされません。Remote Agent for Windows Systems と AOFO (Advanced Open File Option) はプッシュインストールされます。

インストール後のタスク

最良の結果を得るために、Backup Exec を起動する前にチェックしておく必要のある項目を次に示します。

- ストレージデバイスの接続および設定が正しいことを確認します。
- バックアップ先がテープデバイスかディスクデバイスかを決定します。Backup Exec 環境の準備時に、両方のデバイスを設定できます。

  次の点に注意してください。

  - テープデバイスにバックアップする場合は、そのデバイスがサポートされているかどうかを確認します。Backup Exec 環境の設定時に、使用するデバイスに対応したドライバをインストールすることができます。
  - ［ディスクへのバックアップフォルダ］機能を使用してディスクデバイスにバックアップする場合は、バックアップフォルダの作成場所を決定しておきます。［ディスクへのバックアップフォルダ］を作成するデバイスとして、バックアップジョブによるバックアップの対象に含まれていないデバイスで、バックアップジョブの格納に必要な空き領域のあるデバイスを選択します。
- Backup Exec でのメディアの上書き禁止の方法を理解している必要があります。
- デフォルトメディアセットとその無期限の上書き禁止期間を理解している必要があります。
- 新規メディアセットの作成とその周期(毎週、毎月、毎四半期など)の設定方法を調べておきます。
- バックアップ選択項目を参照したり、バックアップ選択項目を選択するときに Backup Exec ログオンアカウントで使用するリソースクレデンシャルを決定します。既存の Backup Exec ログオンアカウントを使用することも新たに作成することもできます。
- すべてのレポートを HTML 形式または Adobe Portable Document Format (PDF) 形式のどちらで表示するかを決定します。デフォルト設定は HTML です。